

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400031		
法人名	合同会社らんらん		
事業所名	グループホームらんらん		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字崎山128-4		
自己評価作成日	令和5年 12月 3日	評価結果市町村受理日	令和6年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4791400031-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4791400031-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和6年 1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、食事・入浴・排泄等日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立して生活を営むことが出来るように支援しています。地域の行事(清掃作業等)に積極的に参加し、交流を図っており、地域行事や通院等の際に、地域の方から認知症についての相談や入所の相談を受ける機会があり、また、直接ホームへ相談に来られる方もおられます。入居者のご家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れをいただく機会もあり、地域とのつながりの拡がりを感じています。ホームの裏の土地をご厚意により無償で貸していただき、無農薬野菜作りによって採れた野菜がホームの食卓で利用者に食され、好評を得ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年の当事業所は、自然豊かな集落にあり、自治会へ加入して積極的に地域行事に参加し、散歩時は地域の人とコミュニケーションを図り、地域の中の事業所として周知され、一人で散歩する利用者に対する地域の見守りも行われている。地域住民が野菜や果物等の差し入れや認知症及び入居希望の相談で立ち寄り、事業所は畑の野菜をお裾分けする等、日常的に交流している。開設時から行政と密に連携して事業所での行政主催の体操教室の開催や職員の処遇改善加算の取得に繋げている。服薬支援マニュアルに沿って服薬管理を徹底し、開設時から「誤薬0」を達成し続けている。事業所裏の広い自家菜園で収穫した旬の食材を活用し、食事は「一汁三菜とデザート」の6品を調理して提供し、利用者から「美味しい」と好評を得るとともに利用者や職員に風邪や新型コロナウイルス感染症等の罹患者がいない。画一的な支援ではなく、利用者の意向や思いを尊重し、本人本位の支援に努め、理念の実践に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【あなたの想いに気づき】・【思いやりの心を持ち】・【安心して暮らせる生活】を3つの理念に掲げ、月1回のミーティング会議で、職員が共有できるように復唱し、確認をし、実践につなげている。	開設時に行政の助言を得て、全職員で作成した理念は、玄関や相談室に掲示し、毎月開催する全体ミーティングで復唱し共有している。事業所は、利用者の入浴や食事、散歩や読書等の日々の過ごし方は、利用者の自由な選択や意思決定を尊重し、理念の「やりたいという気持ちを大切に」や「その人らしさをモットーとした支援」を実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、行事に参加している。新型コロナウイルス感染症が第5類になり、落ち着いてきてはいるものの、インフルエンザの流行もあって、新型コロナウイルス感染症の流行前のような交流ができないので、引き続き、感染予防に十分注意しながら、交流を図っているが、以前のような、日常的な交流とまでは戻っていないのが残念に思います。	自治会に加入し、区長や住民が運営推進委員となり協力している。地域の定期清掃に毎回、数名の職員が参加し、今年再開した「新年のつどい」には利用者も参加している。利用者の散歩時は、地域の人と談笑し、一人で出かける利用者には地域での見守りがある。野菜等の差し入れや入居相談に地域の人が訪れる際、事業所の畑の野菜のお裾分けもしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで、地域の方から認知症の相談を受けることがありますが、新型コロナウイルス感染症拡大前のような交流が出来ないため、地域の方々との直接のつながりを持つ機会が減っており、残念です。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、役場の職員、崎山区長、地域代表として、ホーム開設時に土地を譲ってくれ、役場や地域住民への理解を得るための働きかけ等に協力をいただいた方に委員をお願いしているので、地域との関係の強化につながっており、会議での意見等をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者や家族、行政や知見者、地域代表者で構成し、年6回開催しているが、10月は行政が欠席している。会議では、事業所の活動報告書を配布しているが、ヒヤリハット及び事故の発生、職員研修の実施状況等が含まれていない。議事録や外部評価結果は、各委員に配布するとともにファイルにして玄関に設置している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーには、役場の職員にも参加していただいております、ホームの状況等の把握をしていただいているので、役場へ訪れる地域の方々にホームについての情報等を伝えてくれており、利用者の入退所についても協力をいただいている。	行政とは運営推進会議や加算申請、更新手続き等で窓口を訪問した時に情報交換を行っている。行政からは、「健康な地域づくり」等の研修案内があり参加している。行政主催の体操教室を地域住民の要望を受けて事業所で開催し、利用者へのコロナワクチン接種を行政の配慮で事業所で実施する等、協力関係が築かれている。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは、基本的に身体拘束は行わないということを重要事項説明書に記載している。また、ホームの身体拘束適正化のための指針を定め、職員一人ひとりが、身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。	身体的拘束等の適正化のための指針を作成して掲示し、職員に周知している。定期的に「認知症と身体拘束」等について職員研修を実施している。身体的拘束の適正化検討委員会は、運営推進会議を活用して開催しているが、議事録は2回の作成に止まり、職員への周知も確認できなかった。外出する利用者には、職員の同行や住民と連携した見守りを行っている。	身体的拘束等の適正化を検討する委員会の開催時は、議事録の作成と職員への周知が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームが利用者にとって、安心と安全の場所であるという事を大切に考えており、利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者のご希望に添った支援が出来るように努めている。	虐待防止のための指針や虐待防止対応マニュアルを整備している。事業所は、定期的に「虐待・不適切なケアを防ぐ」等の研修を受講し、「自分がしてほしいケアは他人にもしない」や「不適切なケアを発見した場合の対応」等を学んでいる。利用者に対する言葉遣いや対応が気になる職員には、その場で直接注意し合い、職員による虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で、権利擁護について話し合いながら、学び、学んだことを活用しながら、普段の支援に活かしていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約にあたっては、利用者にホームの見学や試し入所してもらい、利用者に入所の確認をいただいた後に、重要事項説明書に沿って利用者やご家族に十分な説明を行い、納得していただいたうえで、契約書にサイン(押印)していただき、入所していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族には、ご意見箱を常設して、ご意見・ご要望をお聴きする機会にしている。また、運営推進会議に利用者及びご家族の代表者に参加していただき、ホームの活動状況の説明やご意見をお聴きする機会を設けている。	利用者からの意見や要望等は、日頃のケアの中で把握している。家族からは、面会時や電話、運営推進会議等で聞いている。台風で長い間停電した時、利用者の「家族に電話ができるようにしてほしい」の要望に、蓄電池を設置し対応している。家族から「雨天時は車椅子から車への乗り降りをするとき濡れてしまう」との意見があり、環境整備を検討している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回以上開き、職員の意見や提案を聴く機会としている。	職員の意見は、毎月開催する全体会議で聞き、日常業務の中でも随時聞いている。職員からの「体調不良の利用者の食事は、一品減らしていいか」の質問に、間髪を入れず「食事は一汁三菜とデザート6品は厳守」と率直な意見交換をしている。「コロナ禍で利用者と家族が触れ合う機会が減少し、利用者が家族の顔を忘れないよう病院受診は家族対応で」の意見に対応している。開設時から職員の入れ替えも少なく、利用者との信頼関係を深めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が、働きやすい職場を目指して、職員個々の「やりたい事」の希望を聴き、話し合いを持って、職場環境の整備に取り組んでいる。	勤務表作成時は、家族の事情や体調等を考慮し、職員の希望を聞いて年次有給休暇を取得できるようにしている。健康診断は年1回(夜勤を行う職員は2回)実施している。今年度は職員の処遇改善加算を取得し、昇給等に反映させている。ハラスメント対策マニュアルや指針を作成しているが、ハラスメントの定義がパワハラとセクハラとなっている。職員への周知、啓発が確認できず、就業規則は作成中である。	ハラスメント防止について、職員への周知 啓発が望まれる。ハラスメントの定義に妊娠・出産・育児・介護に関するハラスメントの追記とハラスメント防止について就業規則への記載が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者との関わり方等で悩んだ時には、経験豊富な職員に、何時でも相談できる状況・環境作りに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げるにあたり、管理者の研修等の受け入れをしていただいた。また、支援等についてのアドバイスをいただいております。サービスの向上に役立っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約にあたっては、家族による入所希望だけではなく、本人にも施設を直接見ていただき、必要なら体験入所をしていただいている。また、日常生活においても、本人の困っていることや不安な事、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めており、ご家族には出来るだけ面会に来てもらい、利用者の様子を見ていただき、面会の際に感じた事や要望等を聴かせていただき、ご家族との信頼を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたり、本人とご家族には、要望等について話し合いを持つとともに、面会時等にも、本人やご家族の要望を聴かせていただくことにより、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事(洗濯物をたたむ等)を、利用者を手伝ってもらっている。また、利用者の持っている色々な知識等について、職員が教えていただくという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、何時でもいいので、面会に来て、利用者の様子を見ていただくことにより、利用者の心の安定を図り、安心して生活できるように。また、要望を聴かせていただき、サービスの向上に努めたいと思っている。面会になかなか来ていただけないこともあるので、基本的には通院については、ご家族にお願いして、必要な場合には車での送迎や、職員も一緒に通院して状況や薬の把握に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所等の関係を大事にし、関係が途切れないように、職員が連絡を取り、面会に来ていただいたり、必要であれば、送迎をするような支援を行うこともあったが、感染症の関係で、その機会も減っている。また、利用者のなかには、過去の関係を持ちたくないと思っている方もいるので、状況判断を十分に、関係維持に努めたいと思っている。	利用者の馴染みの人や場所等との関係性は、本人や家族、地域の人から聞いて把握している。利用者は、顔馴染みの人が集う広場へ出かけて談笑し、職員と一緒に散歩しながら地域の人との交流を継続している。家族と一緒に馴染みの美容室に行く利用者や長年通っている理髪店へ一人で出かける利用者もいる。家族等と一緒に選挙の投票に参加する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型のため、利用者同士が知り合いであることも多く、会話の中で共通の話題等もあるので、そうした機会を捉えて、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が行えるように努めたいと思っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の理由が、利用者の医療機関への入院等により、ご家族の希望で退所されるケースがほとんどであり、契約が終了した後も、入院先に面会に行き、本人はもとより、ご家族にも喜ばれたことがあったが、必要に応じて、本人やご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努め、困難な場合には、本人やご家族と話し合いのうえ、本人の本位が叶うように努めている。	利用者の思いや意向は、アセスメントや居室担当職員と利用者の関わりの中で把握している。「家に帰りたい」と訴える利用者には、誰も住んでいない自宅を職員と一緒に見に行き、「芋が食べたい」との要望には、家族の協力を得て食事に一品追加している。発語等が困難な利用者には、家族の情報や利用者の表情等から把握することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族等にお話を伺いながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との普段の会話の中で、一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成者(介護支援専門員)が介護計画を作成し、職員会議等で話し合いを持ち、情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、計画作成担当者が居室担当職員から利用者の「やりたいこと」等の意向を聞いて、原案を作成し、利用者や家族に確認している。「元気で長生きしたい」との意向には、「転ばないように歩く」を目標にして、日課に「健康体操」や「散歩」を位置付けて支援している。長期目標は1年、短期目標を3か月とし、3か月毎にモニタリングを実施し、入退院等、変化時は、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等について、業務日誌(個人別記載)に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、利用者代表や利用者家族の代表に出席していただき、ニーズの把握により、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加し、地域資源を利用して、本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、また、事業所も地域資源の一つとして利用していただけるよう、事業所の行事(体操教室他)にも地域の方々に参加していただけるように努めている。(コロナウイルス感染症の拡大以前はクリスマス会にも利用者のご家族や地域の方々に参加していただいていた)		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(今帰仁診療所等)への受診や利用者のかかりつけ医への受診を行っている。	5人がかかりつけ医を継続し、4人が協力医を受診している。入居後初回の受診は、職員が付き添って医療機関との連携を図っている。通院は家族対応で、情報提供書を持参させている。Faxや電話で提供することもあり、受診結果は家族から得ている。通院時にインフルエンザ予防接種を受け、コロナワクチンは事業所で接種している。家族や利用者の状況によっては通院支援も行っている。健康診断も家族対応となっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師の配置がないため、地域の協力医療機関の医師や看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、ご家族と共に職員も面会等を行い、利用者が安心して治療ができるように努めており、病院関係者とも連絡を取り合い、情報の共有による関係づくりを行っている。利用者の中には、病院からの紹介で入所された方もおられる。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り)については、ご家族には、契約時の重要事項説明書にて説明してはいるが、看護師の配置がないので、緊急の場合には、近隣の医療機関に搬送することしかできないので、その辺のことをご家族には説明し、他の施設への変更も含め、話し合いのうえで方針を決定している。	看取り指針を利用開始時に説明し、同意を得ている。看取りの希望を受けて、医師や看護師と連携して取り組んだところ、他の利用者が不安感を示し、最終的に入院となった事例がある。看取り希望が殆どだが、他の利用者への影響や看取りに対応した協力医からの助言もあり、方針を見直す必要性を感じている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、職員会議の際などに、応急手当や初期対応の話し合いをしており、また、ネット配信契約(お茶の水ケアサービス学院)による研修も行っている。また、職員の家族が看護師をしており、褥瘡の予防や処置について、指導してもらっている。	事故防止マニュアルや心肺蘇生の手順を整備し、「事故発生の防止」の研修を全職員が受講している。事故等発生時は翌日職員に報告し、ミーティングで話し合っている。毎朝、口腔ケア体操を実施し、3か月間は行政の派遣講師による体操教室を事業所で開催して、誤嚥や転倒等の予防につなげている。体操はDVDでの継続を考えている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	災害対策については、職員会議の際に検討・確認をしている。また、避難訓練の計画・実施をしているが、利用者が高齢であり、脚の不自由な方も多いため、普段の会話の中で意識の向上を図っている。今帰仁村防災マップを掲示し、全職員に周知している。地域の防災訓練は行っていないとの事であるが、非常時の協力体制の構築をしていきたい。	避難経路図と防災マップを掲示し、昼夜を想定して訓練を3回実施し、動画等による地震発生時の説明会も2回行っている。感染症対策の研修を受講し、災害や感染症の業務継続計画は作成中である。蓄電池を設置し、災害時用備蓄飲料セットを利用者と職員の3日分、及び白米を備蓄している。台風による停電時に備蓄食を摂り、補充している。	



自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。それぞれの部屋については、利用者のスペースという事で、他者が勝手に部屋に入る事は禁止している。(利用者・職員共に共通認識のもとで) また、言葉かけ等についても配慮して対応している。	職員は、プライバシー保護や不適切ケア等の研修を受講し、利用者を尊重した支援に努めている。入浴介助は女性職員が担当し、異性介助時は了解を得ている。トイレはドアとカーテンで、排泄介助時はカーテンやドアの外で見守っている。入居前に本人に事業所を見学してもらい、体験入所も受け入れている。本人の誕生日当日に祝っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見箱を設置して、何時でも本人の思いや希望の表明が出来るように努めている。外出や食事等の希望については、利用者に聴く機会を持ち、計画の立案や実施をしている。(コロナウイルス感染症の面もあり、外出についてはドライブを中心にを行い、食事面での配慮を中心に利用者の希望を受け入れて実施している)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間・就寝等については、本人の意思を大切にしつつ、健康状態等を常に把握しながら、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやオシャレが出来るように支援しており、本人の希望により、家族とも連携して、美容院や理容院に送迎している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理をする事は出来ないが、メニューの希望を取り入れた食事を提供するようになっている。 また、好みの食事が摂れるようにしている。	食事は、事業所の畑で収穫した玉ねぎやニンニク等の野菜や差し入れの旬の食材を使って職員が調理し、利用者と職員と一緒に食べている。主食と汁物、おかず3種、ゼリー等の6品を準備し、本人が食べたい時間に提供している。朝は利用者の希望するパン食である。沖縄料理や行事食もあり、誕生日は本人が好きなウナギや寿司、刺身等も提供している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を心がけている。(誤嚥が心配な方には、トロミやミキサー食の支援を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に気をかけ、声掛けや本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。(義歯の手入れや健康体操等)利用者の歯科治療については、かかりつけの歯科医院で行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に失敗しても「大丈夫だから」と伝え、失敗したらシャワー浴をしていただき、場合によっては職員が洗浄等の支援を行っている。また、オムツを使用されている方についても、本人の意思により、トイレに行けるように支援を行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンの把握に努め、オムツ使用の3人以外は、昼夜ともトイレでの排泄を支援している。失敗時は浴室で対応し、排泄の自立に向けて下肢筋力強化の体操に取り組み、オムツのサイズは担当者が検討し、必要に応じて見直している。水分摂取やお腹マッサージ等で服薬以外での便秘改善にも取り組んでいる。男性用に小便器を設置し、自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所前からほとんどの方が便秘のため、必要な方には医師と相談のうえ、服薬を行っている。また、水分を摂っていただくように支援を行っているが、利用者の中には、味のついた飲み物を好み、他の水分を摂りたがらない方もいるので、繰り返しの声掛けにより、水分を摂ってもらうように取り組んでいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に設定はしておらず、本人の希望でいつでも入浴できるようにしている。一時期、簡易浴槽を設置したこともあったが、利用者がシャワーのみで良いとのこと、安全面も考慮して、シャワーのみの入浴とした。シャワー浴は、職員の介助により、ほぼ1日おきの実施。利用者の状態によっては、声掛けのみで、ご自身で入浴され、見守りのみの方もいる。	入浴介助は女性職員が担当し、入浴日は設定せずに利用者の意向に対応している。夏は1日おき、冬は2日おき以内の支援を基本とし、毎日入る利用者もいる。入浴を拒む場合は、「終わったらヤクルトがあるよ」等の声かけをして対応している。浴室入り口はわかりやすく「ゆ」と描いた暖簾をかけ、冬は入浴前に浴室を温めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の掃除や片付け等については、本人の許可のもとで職員が行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。また、午睡を推奨しており、休息していただけるように支援している。	/	
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院は基本的には、ご家族に行っていただくようにしているが、必要に応じて職員が付き添い、薬の目的等について医師や薬剤師から話を聞き、薬の管理を含め、服薬の支援を行っている。ご家族のみの通院の際は、家族からの薬の目的等を引き継ぎ、薬の保管及び服薬の支援を行っている。また、職員が直接、医師や薬剤師に説明を求めることもある。	服薬支援マニュアルを整備し、職員間で利用者名と薬名、効能の一覧表を共有しており、薬の変更時は一覧表を見直している。日々の与薬が夜間だけのため、「担当者がセットして通勤者が確認し、夜勤者が利用者と一緒に名前を確認して与薬する」という手順を定めて実施している。3人で確認する体制を継続し、開所時から「誤薬ゼロ」を達成し続けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の中には、間違い探しやスクラッチアートを楽しむ方やカラオケが好きな方がおられるので、それぞれの楽しみをできるように支援している。また、時代劇や沖縄民謡を好まれる方が多いので、YouTube等で視聴している。また、外出時の外食の機会も減っているため、普段の食事の中に、寿司やファーストフードを注文し、嗜好品を食する機会としている。	/	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	足の不自由な方が多く、ホームの車でのドライブを楽しみにされている方も多くおられたが、感染症の関係もあり、外出する機会が減っているため、ホーム周辺の散歩を実施している。また、利用者の中には、一人で散歩や外出される方がおり、本人(携帯を所持)には何かあればすぐに連絡をくれるように伝え、気を付けて外出するように声掛けしている。	コロナ禍で全員での外出は控え、1~2人でのドライブを実施し、天気の良い日は車椅子利用者は事業所周辺を散歩している。毎日、職員と一緒に散歩する利用者が1人いる。1人で毎日出かける利用者には、地域住民の見守りがあり、「歩いてたよ」等の連絡がある。法事等で家族と外出したり、地域の理・美容室に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、本人の自己管理で所持されている方もおられる。以前は、ホームで5千円を預かり、本人の希望する物の購入時に使用するようになっていたが、外出の自粛や通院には、ご家族が対応されるようになったので、今は預かっていない。必要な時にはホームで立替で、後にご家族に請求している。	/	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を所持されている方もおりますが、必要に応じて、ホームの電話を使用してもらうこともある。また、ご家族等から電話があれば、本人に取り次ぐこともあるが、職員がご家族のお話を本人に伝えることもあります。手紙については、そのまま、本人に渡しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、共有空間(ホール)に飾り付け(クリスマスツリー・ひな人形・花等)を行っている。	玄関を入るとベンチがあり、座って靴を履き替え、外を眺めることができる。共用空間に季節の花やひな人形等が飾られ、天窓があり、明るさや広さ、調理の音や匂いを感じられる。カラオケ機器や大型テレビが設置され、利用者はカラオケや体操、ユーチューブで昔の映画や沖縄芝居、民謡等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は、共有空間(ホール)で大型テレビを見て過ごされる方が多いので、名護市のライブラリーでDVDを借りて、沖縄芝居等を観る機会を設けている。(最近、YouTubeにて視聴も)また、カラオケ機器を使っの体操(ラジオ体操やゆったり体操等)を行い、カラオケをしたりして過ごしてもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が自由に使えること(火器等危険なものを持ち込みは禁止)を基本として、他の者(他の利用者や職員)が勝手に部屋に入ることを禁止している。 職員による、部屋の掃除等についても、本人の許可を得てから行うようにしている。	木目調で温もりが感じられる居室にはベッドとタンス、棚、エアコンが設置されている。利用者は小物や時計、仏壇等を持ち込み、家族が協力して自分らしい部屋作りをしている。ナースコールの設置はないが、鈴を利用する利用者や入り口を少し開けて必要時に職員を呼ぶ利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自分の力でやる事(他の利用者等に危険がおよぶことがない事)が出来ることについては、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援していきたいと考えている。		